

VI ワークハウスコムロード

1 実施事業

就労継続支援B型

2 重点実施事項

(1) 工賃の向上

新規の受注先が2社増えました。年度の後半に受注した1社は、トヨタ自動車のセンサー部品の製造会社です。安定した収入となる見込みです。平均工賃は、2,500円ほど増えましたが1万円台にはわずかに届きませんでした。

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月
支給額	216,066円	304,717円	179,567円	247,427円	310,278円	178,607円
10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
135,273円	150,987円	238,409円	253,416円	287,228円	299,751円	2,801,726円

(2) 一人ひとりの能力や適性に応じた活動支援の充実

利用者の希望や適性を考慮した個別支援計画を作成し、支援しました。A型事業所への移行1名、グループホームの利用に向けた支援2名、一般就職に向けた支援1名を実施する事が出来ました。

(3) 経営の安定化

平均利用率は79.7%と前年度と同程度を維持しました。就労移行支援体制加算を取得したので、当初予算を上回る収入を得ることができました。しかし、令和5年度は就職者が出なかったため取得できない状況です。

定員20名 現員28名(男性19名、女性8名)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
開所日数	20	19	22	22	22	22	21	20	21	19	20	22	20.8日
延利用者数	311	321	370	370	346	289	327	307	329	327	323	388	334名
利用率	78	85	84	84	79	66	78	77	78	86	81	88	79.7%

3 利用者の状況

ア 年齢構成

年齢	25～29	30～39	40～49	50～59	60～	計
男性	2	5	9	3	1	20
女性	1	2	2	3	0	8
計	3	8	10	6	1	28

ウ 障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	未取得	計
男性	0	2	4	3	0	0	11	20
女性	0	0	4	0	0	0	4	8
計	0	2	8	3	0	0	15	28

エ 手帳の所持状況

	精神保健福祉手帳				療育手帳		身障手帳
	1級	2級	3級	未取得	B	C	3,4級
男性	1	9	3	2	6	4	0
女性	0	3	0	2	1	2	1
計	20				13		1

※精神保健福祉手帳と療育手帳など複数の手帳を所持している人がいます

※精神保健福祉手帳の未取得は、精神疾患はあるが手帳を所持していない人

4 具体的取組み

(1) 利用者支援

ア 就労支援

- (ア) 一般就労を希望する利用者が埼玉県庁人事課スマートステーションへの実習を行い、採用試験を受ける予定です。(令和5年4月現在採用決定)
- (イ) 月末に自らの体調の変化、作業の出来たところ、課題になるところ等を記入してもらい、就労習慣を習得する働きかけをしました。必要に応じてリレーションシップセンターと連携して就労アセスメントを実施しました。
- (ウ) 関係機関と連携し、新たな作業を開拓したり、就労先の情報提供を受けることができました。

イ 日中活動支援

- (ア) 脳梗塞の後遺症のある利用者に対してリハビリ先の指導を基に作業終了後にリハビリを行いました。リハビリの結果、作業ではやれることが増えてきました。
- (イ) 自らの意見を述べる場として毎月作業工賃支給日にアンケートを実施し、当月の反省や翌月の目標を記入してもらい支援に反映させました。
- (ウ) AIスピーカーを玄関に設置しました。利用者間で音楽再生やAIとの会話を通じて、利用者間のコミュニケーションが増えました。

ウ 虐待防止対策

- (ア) 虐待防止委員会で用意したチェックリストを行いました。結果を基にディスカッションしました。また、精神障害者が多く利用する他法人のチェックリストを入手し、活用を模索しました。
- (イ) アンガーマネジメント、身体拘束研修など必要な虐待防止に関する研修に参

加しました。

(2) 働きやすい職場づくり

- ア 管理者が変わり、パートの職員が1名入り新たな体制となりました。業務分担を整理しました。
- イ 健康診断、ストレスチェックを実施しました。職員の少ない小さな職場であることを活かして、コミュニケーションを密にして各職員の心身の状況を把握することに努めました。

(3) 人材育成

- ア 職員1人ひとりの個人としての資質向上を目的として、精神障害・発達障害に関する研修を受講しました。
- イ 精神障害者の支援を中心に行っている事業所から支援方法のヒントをもらい職員と共有してスキルの向上に努めました。

(4) リスク管理

ア 災害対策

- (ア)非常用の備品で消費期間が超えるものの備品を更新しました。避難訓練時に災害伝言ダイヤルの使用方法の説明や大きな地震が起こった時の対応方法などの学習会を行いました。
- (イ)災害時のマニュアルは、新たな利用者の追加は行いましたが、バージョンアップまでは行えませんでした。
- (ウ)近隣施設の社会福祉法人茂樹会久喜の里（高齢者入所施設）の避難訓練に参加して災害時の連携について確認しました。

イ 安全の確保

- (ア)建物や設備の安全点検を実施しました。開所してから5年が経過したのでねじのゆるみ等の小さな修繕はありましたが、大規模な修繕の必要な箇所はありませんでした。
- (イ)公用車の定期点検を実施しました。送迎の帰路で単独の物損事故が発生しました。利用者の乗車は無くケガ人もいませんでした。

(5) 感染症対策

日中活動中の密を避けるため、2班体制にして、活動場所・休憩場所・休憩時間をずらして活動しました。

(6) 地域交流

年2回、内谷流地区のゴミ拾いに参加して近隣の清掃活動を行いました。参加の際は、グループホームうちやの利用者と共に参加して地域との交流を持つようにしています。

(7) その他

住み慣れた地域で生活し続けられるように、家族の急な入院等で在宅生活が不安な利用者に対して、相談センターと協働で地域生活拠点事業のスキームに沿って在宅支援を行いました。